Komei Team3000
Komei Saitama-city
公明党さいたま総支部ニュース
2011 1 Jan.
号外❶

[子宮頸がんワクチン]無料接種 早期実現へ！ 市長 3月実施の方針

乳幼児の細菌性髄膜炎予防の[肺炎球菌ワクチン] [ヒブ(インフルエンザ菌b型)ワクチン]も無料接種！

本会議答弁に立つ清水さいたま市長

市長が「迅速な取組み」を表明

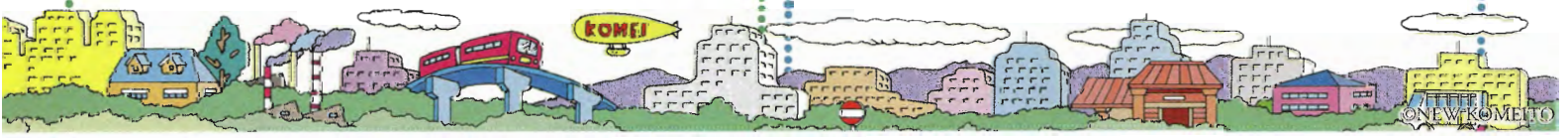
さいたま市議会12月議会で公明党は、国が補正予算で、子宮頸がん、小児用肺炎球菌／インフルエンザ菌b型(ヒブ)の3つのワクチンを市町村が実施した場合に、国が半額を助成する制度を創設したことを受けて、さいたま市での早期実施を迫りました。

清水市長は「医療機関との調整や、対象者への周知などの準備に期間を要するが、事業の重要性を考え、速やかに情報収集と調整を行い、適切、迅速に取り組む」と実施方針を初めて示しました。

その後のマスコミの取材に対して市長は、2月議会に補正予算を提出、年度内の実施をめざす方針を明らかにしました。実施の詳細は検討中ですが、子宮頸がんは中学1年～高校1年の女子約24,000人、肺炎球菌とヒブは生後2か月～4歳児約65,000人が対象になると想定されます。

子宮頸がんワクチン

海外ではほとんどの国で、子宮頸がんの予防ワクチンが普及。日本では承認が遅れ、公明党などの推進で2009年秋にやっと承認された。3回のワクチン接種で、発がん性HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染を長期間予防できる。感染したHPVの排除やがん細胞の治療効果はなく、あくまで感染防止ワクチンであるため早い年齢での接種が必要とされている。

細菌性髄膜炎

脳を包む髄膜が菌で炎症を起こす病気。細菌性髄膜炎の約6割がヒブ(インフルエンザb型菌)感染といわる。ヒブ菌はセキやクシャミで飛散するため保育園などでの集団感染の恐れがあり、早期の予防接種が必要。日本ではヒブワクチン接種が2008年12月から、細菌性髄膜炎のもう一つの原因菌である肺炎球菌の予防ワクチンが2010年2月から始まっている。